

地域活性化の拠点となる「道の駅」の整備

宮崎県日之影町地域振興課

はじめに

日之影町は、宮崎県の最北山間部に位置し、総面積277.67km²で町土の約91%が山林の自然豊かなまちです。地形は、町の中央部を五ヶ瀬川が東西に貫流し、その支流の日之影川が町の北部を東西に二分して流れているほか、大小の河川が周囲の深山からこの二つの川に山を削って流れ込み、深いV字形の溪谷を形成しています。これらの河川の両岸は50m～100mの切り立った断崖となり、その上部に階段状に耕地が拓かれ、その耕地を中心に大小多数の集落が点在しています。峻険な山岳と大小の河川が生み出す景観は、豊かな大自然の美であり、大分県境の一部は、祖母・傾国定公園区域にも指定され、周辺市町村とともに「世界農業遺産」の認定や、「ユネスコエコパーク」に登録されています。



青雲橋周辺の地形

また、本町は、延岡市を中心とする宮崎県北定住自立圏に属しており、地域の大動脈である国道218号は延岡市から五ヶ瀬川の左岸沿いに町を東西に横断し、高千穂町、五ヶ瀬町を経て熊本県へつながっています。



九州中央自動車道の整備状況

宮崎県（R2.6）作成「宮崎県の高規格幹線道路網図」引用

再整備に至る経緯

「道の駅青雲橋」は、昭和 59 年青雲橋が国道 218 号バイパスの一部として開通したことを受け、その青雲橋の西側の袂に昭和 63 年に「宮水生産物直売所」として木造 2 階建て延床面積 294 m²で建設され、平成 6 年から「道の駅」として営業を開始しました。その後、増改築を繰り返し約 500 m²で営業していましたが、建築から 30 年が経過し老朽化による修繕費が年々増加していたことや売り場や観光案内エリアが狭小で、バリアフリーに対応していない施設であったため再整備の機運が高まっていました。



整備前の店内状況

整備内容の検討

このような状況の下、平成 29 年 1 月に「道の駅青雲橋周辺施設整備検討委員会」を設置し、町民の方々から再整備に向けた多くの意見を賜ることとなり、協議を 7 回と視察を 1 回実施し、①再整備される場所、②再整備に必要な施設内容と規模について、検討いただきました。また、8 月には平行して基本設計に取りかかり委員会からの意見反映に努めました。

整備位置については、現在地以外での意見もありましたが、国道沿いでは他に用地が確保できないことや青雲橋が景勝地であることから現在の敷地内で建築位置を検討することとなり、

- ・ 青雲橋の眺望の確保
- ・ 建物の視認性の確保
- ・ 工事期間中の営業が可能

ということを踏まえ、複数案のなかから現状位置の東側の建設案が最適との結論に至りました。

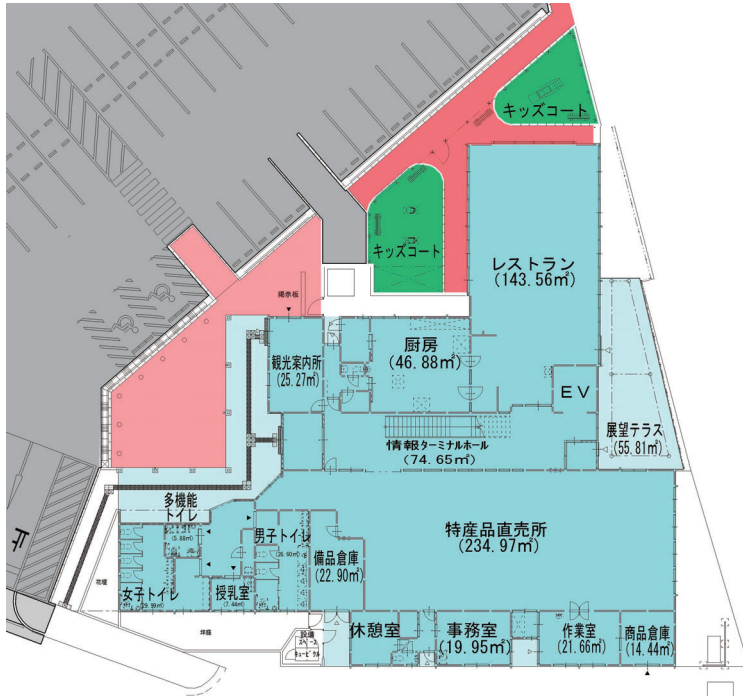
また、施設については、

- ・ 木材を使った施設
- ・ バリアフリーへの対応
- ・ レストランと特産品販売所の導線の確保
- ・ 景観の利用
- ・ バックヤードの充実
- ・ 観光案内の充実

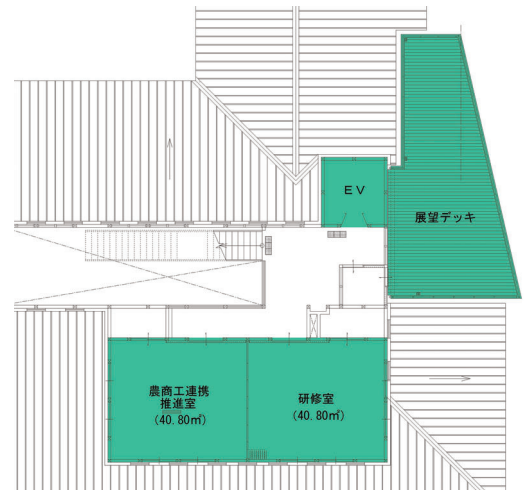
という点が提言されました。また、あわせてキッズスペースやドッグラン、バーベキュー施設、ボルダリング施設、足湯、観覧車の設置やより広い駐車場の確保等のハード面や、誘客のイベント開催、目玉商品となる地元食材を使った商品創作や職員研修の実施等のソフト面の提案もいただきました。

施設の整備

検討委員会からいただいた意見を踏まえ、平成 30 年 5 月に詳細設計に取りかかり、お子様連れが利用しやすいよう授乳室やキッズコートを設け、近年、町内の北部地域で人気が高まっている「ボルダリング」を紹介するため、キッズコートにボルダリング壁を設計に取り入れました。



1 階配置図

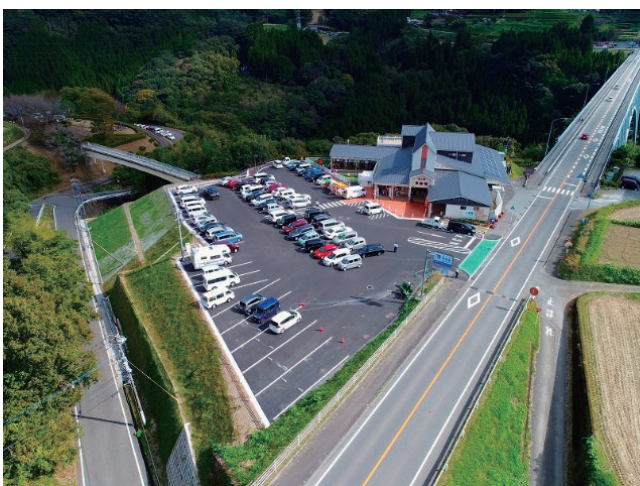


2 階配置図

地権者をはじめとする関係者皆様の理解により、平成 30 年 9 月から地方創生拠点整備交付金を活用し、造成及び建築工事を開始。工事は順調に進み、平成 31 年 4 月にプレオープンしました。更に令和元年度にかけて駐車場等の周辺施設を整備、令和元年 10 月に竣工、11 月にグランドオープンを迎えました。

道の駅の母屋では、厨房、商品倉庫や作業室、休憩室等を以前の建屋より 3 割程度広くするなど、バックヤードを整備することで従業員の労働環境の改善を図ることができました。

レストランにおいては、面積が広がったことで席間を確保することができ、今のコロナ禍でも安心してご利用いただけています。また、地元の有害駆除等で捕獲した「イノシシ肉」を活用した「シシ丼」等の新たなメニュー加わり人気となっています。



整備の全容



レストランの様子

物産販売所でも面積が広がったことで、車いすでも買い物ができるようになりました。売場のレイアウトも一新され、特産品である「ひのかげ栗」や「釜炒り茶」を使ったソフトクリームを新たに発売しました。また、町独自の「農産物認証制度」を創設し、安全で安心して購入できる野菜等の販売を開始したほか、九州管内の道の駅と連携し、当地では味わえない果物等の販売も実施し前年を大きく上回る売上を記録しています。

他にも、工事期間中は作業内容によって臨時的に休業しましたが、その期間を活用して、接客に関する職員研修やポップ作成の研修等を実施し、お越しいただいた皆様に満足していただける体制づくりにも注力しました。



特産品販売所の様子



キッズスペースの様子

整備施設の内容

項 目	施設の内容	
主要施設	建物	木造2階建（一部鉄骨） 延床面積 985 m ² （1階 834 m ² 、2階 151 m ² ）
	駐車場	普通車 52 台（うち身体障害者用 2 台） 中型車 2 台、大型車 5 台
	トイレ	女性用 30 m ² （5 器）、男性用 27 m ² （小 5 器・大 3 器）、 多機能 6 m ² （1 器）
	公衆電話	1 基
休憩施設	レストラン 144 m ² 、授乳室 7 m ² 、 キッズコート（遊具 3 基、ボルダリング施設）	
情報発信施設	観光案内所 25 m ² 、情報案内板 1 基、 情報ターミナルホール 75 m ² 、Wi-Fi	
地域連携施設	特産品販売所 235 m ² 、研修室 41 m ² 、農商工連携推進室 41 m ²	

今後の展開

現在、国道 218 号に並行して計画される九州中央自動車道（全延長 L=95km）は、関係者の皆様の努力や周辺住民の方々の理解により順調に進捗しています。町内においても、平成 30 年 11 月に高千穂日之影道路雲海橋交差点～日之影深角 IC 間が開通し、令和 3 年中には日之影深角 IC～平底交差点間が開通予定となっています。本町の大動脈である国道 218 号沿いにある「道の駅青雲橋」はコロナ禍でも多くの方

に利用していただいております。町としましては、道の駅を「地域活性化の拠点となる施設」と位置づけ、谷下にある中心街や他の観光施設等への接続施設として期待しています。近隣には役場庁舎も新設され、それらを巡回するコミュニティバスの乗車客数の増加や貨客混載を促進することとあわせ、利用者アンケートによる利用者ニーズを把握することで、地元の方はもちろん来町者の方からも寄りやすい、使いやすいと満足していただける施設を目指して様々な方策に今後とも取り組んでいきたいと思っています。



整備後の道の駅青雲橋



好評の「ひのかげプレミアム栗ソフトクリーム」



実証実験中のコミュニティバス貨客混載事業